

平成29年度事務事業進行管理表(自治振興センター用)  
(環境ISO管理)

事務事業名	一般事務及び施設管理業務
センター名	鼎自治振興センター

1 環境側面及びそれに伴う環境影響

通常時	非通常時	緊急事態	環境側面	影響評価						著しい環境側面
				1	2	3	4	5	6	
○			紙の消費	×	×	×	×	×	—	
○			電気の消費	×	—	×	—	×	—	
○			水の消費	×	—	—	—	×	—	
○			施設の緑化	—	—	○	○	—	○	
	○		フロン漏れ	×	—	×	—	—	×	
	○		公用車の廃棄	×	×	—	—	×	×	
		○	灯油流出	×	—	—	×	—	×	
		○	建物火災	×	×	—	—	—	—	

【作成上の注意】

- 「通常時」は通常の業務・作業の条件下で発生する可能性が大きい場合、「非通常時」は業務・作業の開始・終了時、停止時、故障時などの条件下で発生する可能性が大きい場合をいいます。
- 「環境側面」は、環境と相互に作用する、又は相互に作用する可能性のある組織の活動又は製品又はサービスの要素です。
- 影響評価は、1：典型7公害(大気、水質、土壌、騒音、振動、地盤沈下、悪臭)、2：廃棄物発生/抑制、3：地球温暖化の進行/抑制、4：自然の破壊/保全(緑地、生物多様性、水辺)、5：資源の枯渇/保全、6：その他(有害物質、景観)の分類ごとに実施します。
- 評価基準は、分類ごとに、環境側面が与える環境影響について、影響範囲、発生頻度、影響の重大性(最悪を想定)を考慮して判断します。
- 影響評価の結果の表示は、良い影響大：○○、良い影響小：○、影響なし：—、悪い影響小：×、悪い影響大：××と表記します。
- 影響評価の内容により、課長が著しい環境影響があると判断した場合は、「著しい環境側面」とし、○を入力します。

2 環境側面に伴う順守義務

法令、例規、利害関係者のニーズと期待のうち順守すると決定したもの	要求事項	順守評価	
		中間	年間
廃棄物の保管	廃棄物保管の表示、分別の徹底、飛散・流出・浸透・悪臭防止の措置	○	
施設の管理	防火管理者の選任	○	
施設の管理	消防用設備の点検(1回/年)及び結果報告	○	
施設の管理	避難訓練計画の届出及び訓練の実施(1回/年)	○	
灯油貯蔵タンクの管理	貯蔵、取り扱い、自主点検の実施	○	
フロン類の漏出防止	第一種特定製品の簡易点検と廃棄時の適正な処置の実施	○	
家電類の廃棄	家電リサイクル法に応じた廃棄時の適正な処置の実施	○	
公用車の廃棄	リサイクル券の適正な保管及び廃棄時の適正な処置の実施	○	

- 順守評価が必要なものについて記載します。
- 組織の状況等の検討表の「2 利害関係者のニーズと期待」において「うち、順守義務とするもの」と決定したものを転記します。
- 順守評価結果は、良：○、否：×、期間中に要求事項に該当する内容なし：—で表示します。

3 リスクと機会(上記1及び2に関係するもの)

リスク (マイナス要素)	紙・電気等の消費、産業廃棄物の排出、火災の発生、灯油の流出、フロン類の漏出
機会 (プラス要素)	グリーン商品の購入、施設の緑化

#### 4 環境目標

番号	区分	環境目標 ①実施事項(何を) ②達成期限(いつまでに) ③結果の評価方法(どのような水準に)	年間スケジュール 環境目標達成のための 手段・方法・手順	中間評価		年間評価	
				進捗状況・成果 (監視・測定・分析・評価)	達成 状況	進捗状況・成果 (監視・測定・分析・評価)	達成 状況
1	①	手作り封筒を	手作り封筒を使用することにより封筒の消費削減を図る。半期ごと検証し、職員の自覚を促す。	各委員会の通知等は全て手作り封筒を使用し消費削減ができた。	○		
	②	年度末までに					
	③	2,000枚使用					
2	①	通知等による啓発	通知文書に環境保全に関する啓発文を入れ、地区住民に対しても環境保全の推進を図る。半期ごと検証し、職員の自覚を促す。	通知文書に啓発文を入れ、地区住民に対して環境保全の推進ができた。	○		
	②	年間を通じて行い					
	③	2,000枚送付					
3	①	昼食リターナブル容器利用	リターナブル容器を利用することにより、廃棄物の発生を抑制する。半期ごと検証し、職員の自覚を促す。	廃棄物の抑制ができた。	○		
	②	年間を通じて行い					
	③	実施率90%					

平成29年度事務事業進行管理表(自治振興センター用)  
(環境ISO管理)

事務事業名	団体活動支援事業
センター名	県自治振興センター

1 環境側面及びそれに伴う環境影響

通常時	非常時	緊急事態	環境側面	影響評価						著しい環境側面
				1	2	3	4	5	6	
○			河川美化活動の実施	-	○	-	○	-	○	
○			財産区有林の管理	○	-	○	○	○	○	
○			モミジの里整備	-	○	○	-	○	○	

- 【作成上の注意】
- 「通常時」は通常の業務・作業の条件下で発生する可能性が大きい場合、「非常時」は業務・作業の開始・終了時、停止時、故障時などの条件下で発生する可能性が大きい場合をいいます。
  - 「環境側面」は、環境と相互に作用する、又は相互に作用する可能性のある組織の活動又は製品又はサービスの要素です。
  - 影響評価は、1：典型7公害(大気、水質、土壌、騒音、振動、地盤沈下、悪臭)、2：廃棄物発生/抑制、3：地球温暖化の進行/抑制、4：自然の破壊/保全(緑地、生物多様性、水辺)、5：資源の枯渇/保全、6：その他(有害物質、景観)の分類ごとに実施します。
  - 評価基準は、分類ごとに、環境側面が与える環境影響について、影響範囲、発生頻度、影響の重大性(最悪を想定)を考慮して判断します。
  - 影響評価の結果の表示は、良い影響大：○○、良い影響小：○、影響なし：-、悪い影響小：×、悪い影響大：××と表記します。
  - 影響評価の内容により、課長が著しい環境影響があると判断した場合は、「著しい環境側面」とし、○を入力します。

2 環境側面に伴う順守義務

法令、例規、利害関係者のニーズと期待のうち順守すると決定したもの	要求事項	順守評価	
		中間	年間

- 順守評価が必要なものについて記載します。
- 組織の状況等の検討表の「2 利害関係者のニーズと期待」において「うち、順守義務とするもの」と決定したものを転記します。
- 順守評価結果は、良：○、否：×、期間中に要求事項に該当する内容なし：-で表示します。

3 リスクと機会(上記1及び2に関係するもの)

リスク (マイナス要素)	
機会 (プラス要素)	河川環境保全、環境意識の向上、廃棄物の抑制、景観保全

4 環境目標

番号	区分	環境目標 ①実施事項(何を) ②達成期限(いつまでに) ③結果の評価方法(どのような水準に)	年間スケジュール 環境目標達成のための 手段・方法・手順	中間評価		年間評価	
				進捗状況・成果 (監視・測定・分析・評価)	達成 状況	進捗状況・成果 (監視・測定・分析・評価)	達成 状況
1	①	河川美化活動を	全市一斉水辺等美化活動や水 辺等美化活動など地区民に幅 広く呼び掛け実施する。	幅広く呼び掛けて実 施することができた。	○		
	②	年度末までに					
	③	3回以上実施する					
2	①	アルミ缶を	リサイクルステーション開設 日に合わせ、アルミ缶を回収 し、環境保全活動に活用す る。	年間を通じて実施す ることができた。	○		
	②	年間を通じて回収し					
	③	収益を環境保全に活用する					
3	①						
	②						
	③						